

## ■ 県内分布

日本海側、瀬戸内海の他海域にはふつうにみられる。

## ■ 国内分布

本州太平洋岸中部、本州日本海岸、九州、瀬戸内海

## ■ 選定理由

| 人為性    |  | 特殊性    |  | 学術性   |   |
|--------|--|--------|--|-------|---|
| 生育環境破壊 |  | 特殊生育環境 |  | 特殊な分布 |   |
| 観賞用等採取 |  | 特異な生態  |  | 分布の限界 |   |
|        |  |        |  | 希少    | ○ |

## ■ 特記事項

瀬戸内海域全体では比較的普通にみられるが、この海域では希産。科の所属をヒメウスギヌ科とする考え方も提案されている。

## ■ 保護上の留意点

-

## ■ 種の概要

体は小さい盤状付着器で基物に付着し、扁平葉状で高さ25cm、幅20cm、厚さ2mmにもなる。外形は卵形で、ふつういくつかの裂片に分かれる。髄層は直径7-8 $\mu$ mの細い髄糸がゆるく粘着質の中を走っており、皮層は約100 $\mu$ mの厚さで、数珠状の細胞からなる叉状分枝した皮層糸からなる。直径10-15 $\mu$ mの球形の腺細胞が皮層糸に生ずる。質は柔らかい。乾燥するとき紙に密着する。